

ChatGPTに Power Platformの勉強を 手伝ってもらおう

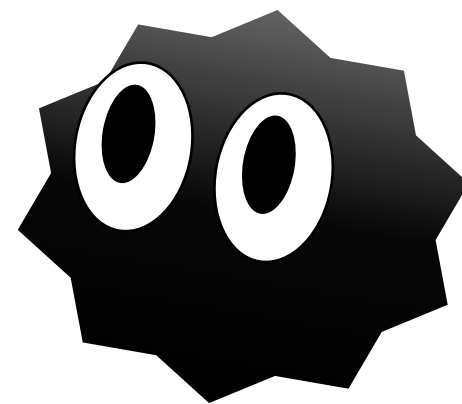


RPA Community

Power Platform × ChatGPTネタやIT転職話などなど！

ITネタ満載ライトニングトーク大会！

2025年1月28日（火）



自己紹介

- 名前：

わたるふ



- こんなひとです

- SharePoint Server 2007 から
お仕事でMicrosoft 製品に関わる
- PowerShell が好き
- Microsoft Teams が好き
- 今はPower Automate に夢中

- 活動内容

- 調査・検証したことなどをブログで解説しています
- 開発したもの（Power Automate のフロー、PowerShellの
ソースコード）をGitHubで公開しています



Microsoft MVP for
Business Applications

(2023/4~)

- 活動場所

- ブログ（**主な活動場所**）
ルドルフもわたるふもいろいろあってな
<https://wataruf.hatenablog.com>
- マッシュマロ（**フローについて質問を受け付けています**）
https://marshmallow-ga.com/wataruf01?utm_medium=url_text&utm_source=promotion
- 過去の登壇資料
<https://www.docswell.com/user/wataruf01>
- X (旧 Twitter)
<https://twitter.com/wataruf01>
- GitHub
<https://github.com/wataruf01>
- Microsoft MVP プロフィールページ
<https://mvp.microsoft.com/ja-jp/PublicProfile/5005227?fullName=Wataru%20Fukai>

注意事項

- 解説する内容は私の個人的な見解が含まれています。
- 内容に誤りがある場合はご指摘をいただけると助かります。

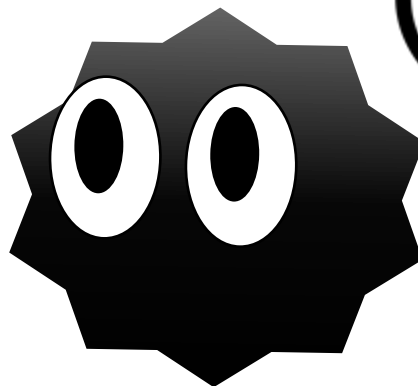
はじめに

今回お話する内容は個人ブログで投稿した内容です。

また、勉強会終了後に登壇資料を公開する予定です。

そのため、聞き逃したところや詳しく見直したい部分が出てきましたら

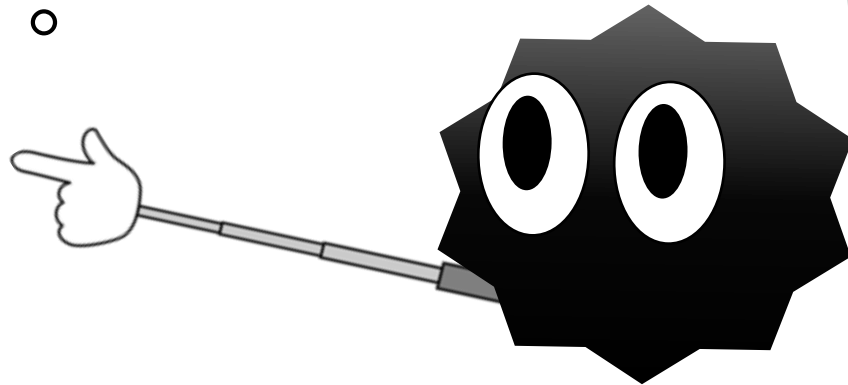
ブログもしくは登壇資料でご覧ください。



よろしくお願いいたします

今回のお話

ChatGPTに
Power Platformの勉強を
手伝ってもらう方法について
お話します。



タイトルを「Power Platform の勉強」
としていますが、
応用次第でいろんな勉強内容に
活かせることができます

ご活用ください

活用したことは全部で3つ！

- Chat GPTに1問1答クイズを作ってもらおう
- Chat GPTによる寸劇で勉強内容を記憶に定着させる
- Chat GPTと感想戦を行う

まずは

ひとつめの活用例を紹介します！

- Chat GPTに1問1答クイズを作ってもらおう

背景

プロンプトにおける手法のひとつとしてこのような指示文があります

「質問内容が曖昧ならば
私に逆質問してください」

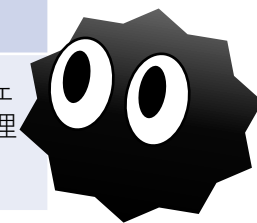
「ChatGPTは
ユーザーから質問する相手である」
という固定概念があったため、
はじめてこの指示文を見たときは
目から鱗が落ちました

発想の転換ですね。

今回解説するのは
この「逆質問の催促」指示を
活用した方法です。

参考：逆質問の例

ケース	ユーザーの質問	ChatGPTの逆質問	結果
技術的な質問	Power Automateでフローを作りたいけど、どうすればいいかわかりません。	どのような目的のフローを作成したいですか？メール通知、データ自動更新、承認プロセスなど、具体例を教えてください。	ユーザーは「メール通知を自動化したい」と答え、具体的なフロー作成方法が提案される。
ビジネス課題	社員の生産性を上げる方法を教えてください。	生産性向上には業務プロセス改善、ツール導入、社員教育などがありますが、どの領域に課題を感じていますか？	ユーザーが「業務プロセスの改善」と答えた場合、それに応じた具体的な提案が提供される。
個人の課題	最近集中できないんですが、何かアドバイスはありますか？	集中できない原因を教えてくださいませんか？環境の問題、タスクの多さ、休息不足など、どれに当てはまりそうですか？	ユーザーが「タスクが多すぎる」と答え、タスク管理の具体的な方法についてアドバイスが提供される。
学習のサポート	新しいプログラミング言語を学びたいけど、何から始めればいいですか？	どのプログラミング言語に興味がありますか？また、学習の目的（例: アプリ開発、データ分析、Web開発）を教えてくださいませんか？	ユーザーが「Pythonを使ったデータ分析」と答え、それに基づいた学習プランが提案される。
キャリアの相談	キャリアアップを考えているけど、どう進めればいいかわかりません。	現在のキャリアのどの部分に満足していないと感じていますか？スキル不足、仕事の方向性、職場環境など、具体的に教えてくださいませんか？	ユーザーが「スキル不足」と答え、スキル向上のための具体的な学習方法やリソースが提案される。
プロジェクトの計画	チームのプロジェクトを円滑に進めるために、どうしたらいいですか？	現在のプロジェクトで特に困っている点はどこですか？進捗管理、コミュニケーション、リソース不足など、具体的に教えてくださいませんか？	ユーザーが「進捗管理」と答え、プロジェクト管理ツールの提案や具体的な進捗管理方法が提供される。



参考：「逆質問の催促」はこんな用途で活用できる指示文です

- GPTが逆質問をすることで、ユーザーが本当に求めている情報や意図をより正確に把握することができる。
 - ChatGPTはシステムとして機械的に回答を生成する性質がありますが、それでも逆質問を通じてユーザーの期待値を調整し、回答の方向性を具体化することが可能です。
- 曖昧さを取り除くプロセスそのものが、ユーザーにとって考えを整理する機会となり、結果的に得られる回答の質や実用性を向上させることにつながる。
- **ユーザーが質問を言語化する際に気づいていなかったポイントを整理する助けとなり、より明確な形で目的に近づく結果が期待できる。**

ここからが本題

いいこと思いついた！



「私に逆質問してください」という指示を
メインで使ってみるのもいいかも

そんなわけで

Chat GPTに1問1答クイズを作ってもらいました

第1問

以下の構文を実行すると何を意図しているでしょうか？

```
plaintext コードをコピーする  
concat('作成者: ', toUpper(triggerOutputs()?['body']['createdBy']), ' - 優先度: ', if(equa
```

選択肢

1. トリガーされたデータから作成者名を大文字に変換し、優先度が「High」の場合「高」、それ以外は「通常」として出力する。
2. トリガーされたデータから作成者名をそのまま出力し、優先度を「通常」に固定して出力する。
3. トリガーされたデータの優先度が「High」であれば作成者名を大文字に変換し、そうでなければ何も返さない。
4. トリガーされたデータから作成者名を小文字に変換し、優先度を「高」に固定して出力する。

どれを選びますか？

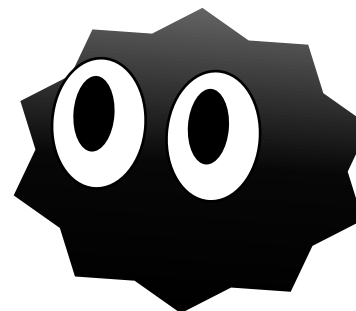
🔊 📄 👍 👎 🔄

ChatGPT にメッセージを送信する

🔍 🌐 🔊

これがつまり

「**ユーザー側が質問されることを
メインとしたChatGPTの使いかた**」です。



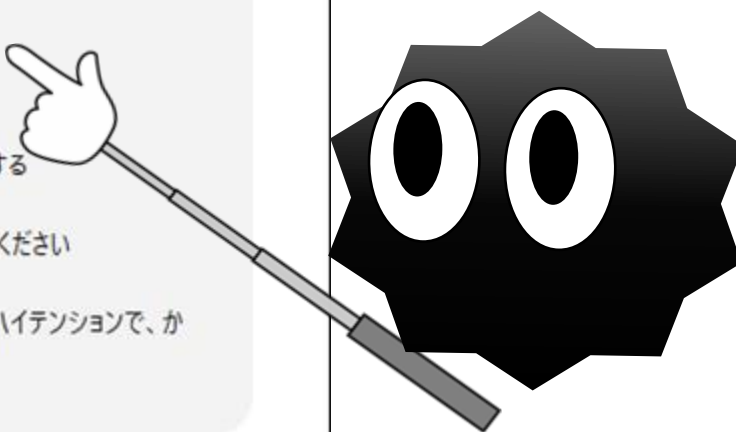
意外としっかりしたクイズを作ってくれます

実際にやってみましょう

Power AutomateまたはPower Appsのクイズを出してください。

下記の指示に従ってください：

- ・時間がかかってもいいので、出題内容に事実と異なる内容が含まれないように慎重に確認してください
- ・日本語環境であることを前提にしてください
- ・出題前に下記内容について質問してください。1つずつ質問してください
- 出題内容は「1.Power Automate」と「2.Power Apps」のどちらか。数字で指定してください
- 出題内容は「1.関数の基本的な使い方を当てる」と「2.複数の関数を利用した構文を見て意図を当てる」と「3.実現したい要件を見て構文を当てる」のうちのどれか。数字で指定してください
- ・回答形式は選択肢にしてください
- ・問題数は10問にしてください
- ・1問ずつ出題してください。「次の問題に進みますか？」などの確認は不要です。
- ・1問採点することに下記のことを実行してください
- 正誤判定の結果を提示する
- 正解を提示する
- 正解について解説する
- 関数について「基本的な使用例」と応用例を提示する
- 正解以外の選択肢について、不正解である理由を解説する
- 出題数と正解数と不正解数を提示する
- ・すべての出題と回答が完了したら、下記のことを実行してください
- 最終的な正答数を提示する
- すべての出題数のうち7割以上の個数の問題に正解したハイテンションで、かつ、長文で褒める
- 不正解であった出題を再度出題する



この指示文を
ChatGPTにそのまま
コピー&ペーストで
入力してください

手直し無しで使えます。

指示文のテキストはブログ記事で公開しています。

【TIPS】【連載その1】ChatGPTに
Power Platformの勉強を手伝ってもらおう
<https://wataruf.hatenablog.com/entry/2024/12/08/00000>

プロンプトを実行すると

- 最初に、クイズを出題する対象製品の指定が求められます。
- 好きなほうを選択肢でこたえましょう。「1」 or 「2」



では、クイズを開始する前に以下の質問に回答してください。

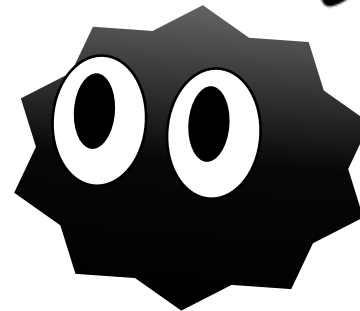
質問1

出題内容はどちらですか？

1. Power Automate

2. Power Apps

数字で選択してください。



「1.Power Automate」で
お願いいたします。

次に

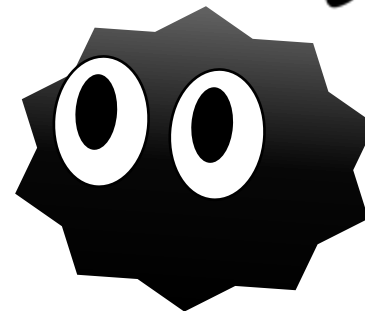
- 問題の種類について質問されます。
- 好きなものを選択肢でこたえましょう。「1」 or 「2」 or 「3」

質問2

出題内容はどれですか？

1. 関数の基本的な使い方を当てる
2. 複数の関数を利用した構文を見て意図を当てる
3. 実現したい要件を見て構文を当てる

数字で選択してください。



「2.複数の関数を利用した構文
を見て意図を当てる」
でお願いいたします。

出題開始

指定した内容でクイズの出題が開始します。

第1問

以下の構文はどのような意図で使用されていますか？

```
less
```

📄 コードをコピーする

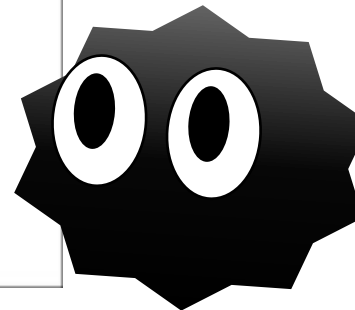
```
add(int(variables('開始番号')), mul(variables('増加量'), 3))
```

選択肢

1. 開始番号に増加量を3回加算した結果を求める
2. 開始番号に3を掛けた後、増加量を加算する
3. 開始番号を増加量で割った結果を求める
4. 開始番号に増加量を累積させる

あなたの回答をお選びください！

キタ————(° ∇ °)————!!

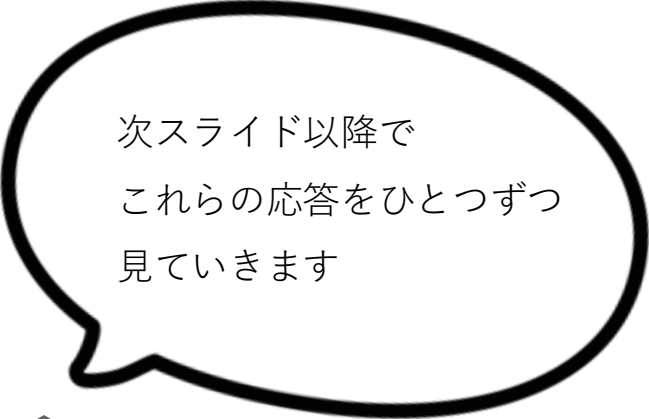


指定した通り、
「Power Automate」の
「複数の関数を利用した構文を見て
意図を当てる」
クイズが出題されます。

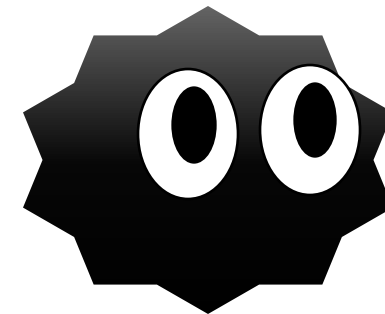
解答入力後の応答 1/6

クイズに1問解答するたびに下記の応答が出力されます。

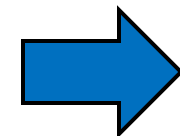
- 正誤判定
- 正解の解説
- 他の選択肢が不正解である理由の解説
- 関数の使用例
- 現在の成績



次スライド以降で
これらの応答をひとつずつ
見ていきます



次のスライドへ



解答入力後の応答 2/6

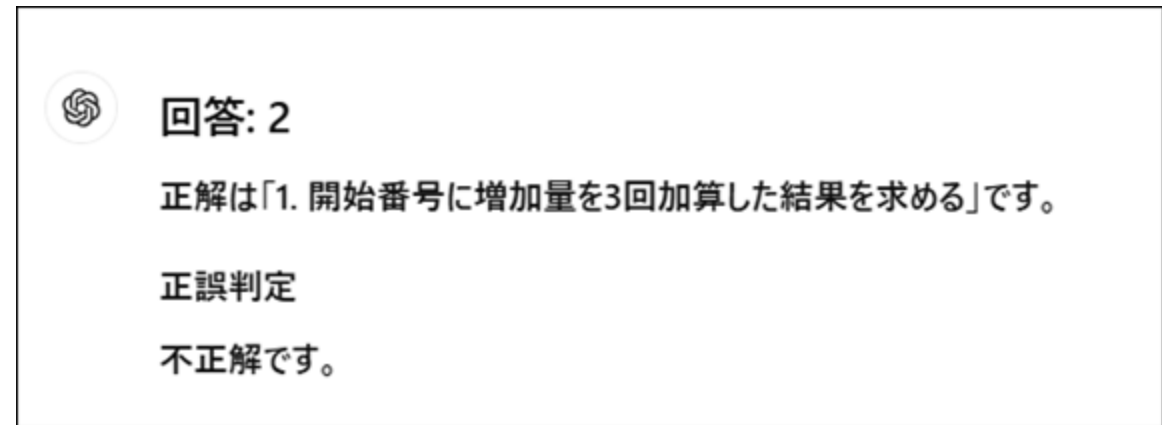
正誤判定

- 解答した内容が正解であるか不正解であるかを提示します。

正解した場合の出力例



誤答した場合の出力例



解答入力後の応答 3/6

正解の解説

- 正解の根拠や詳細を解説します。

正解の解説

構文 `add(int(variables('開始番号')), mul(variables('増加量'), 3))` は以下の
ように動作します：

1. `int(variables('開始番号'))`
 - 変数 `開始番号` を整数に変換します。
2. `mul(variables('増加量'), 3)`
 - 変数 `増加量` に3を掛けます。
3. `add` 関数
 - 整数化された `開始番号` に、計算された `増加量 × 3` を加算します。

この構文の意図は、「開始番号に増加量を3回加算した結果を求める」ことです。

解答入力後の応答 4/6

他の選択肢が不正解である理由の解説

- 正解以外の選択肢について、それらが不正解である理由を提示します。

各選択肢の解説

1. 正解: 開始番号に増加量を3回加算した結果を求める
 - 構文全体がこの意図を示しています。
2. 不正解: 開始番号に3を掛けた後、増加量を加算する
 - 構文において、開始番号に3を掛ける操作は含まれていません。 `mul` 関数は増加量に適用されています。
3. 不正解: 開始番号を増加量で割った結果を求める
 - 割り算に使用される `div` 関数は含まれていません。
4. 不正解: 開始番号に増加量を累積させる
 - 累積処理を行う繰り返しやループの構文は含まれていません。

解答入力後の応答 5/6

関数の使用例

- 出題で使用された関数の使いかたを解説します。

基本的な使用例

基本例

scss

📄 コードをコピーする

```
add(10, mul(5, 3)) // 結果: 25
```

- 開始番号 10 に、5を3倍した値（15）を加算します。

応用例

条件によって増加量を変える場合：

less

📄 コードをコピーする

```
add(int(variables('開始番号')), mul(variables('増加量'), if(equals(variab
```

- 条件によって増加量に掛ける値を動的に変更できます。

解答入力後の応答 6/6

現在の成績

- 現在の出題数、および正解数と不正解数の内訳を提示します。

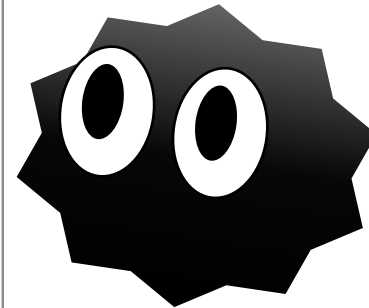
現在の進捗

- 出題数: 1問
- 正解数: 0問
- 不正解数: 1問

次の問題に進みます！



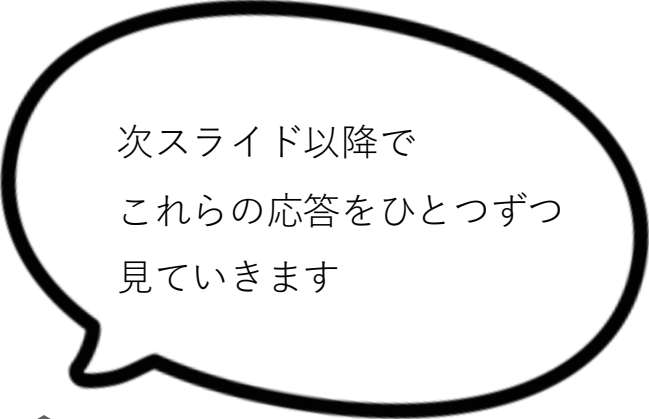
これらの応答が
1問解答するたびに提示されます



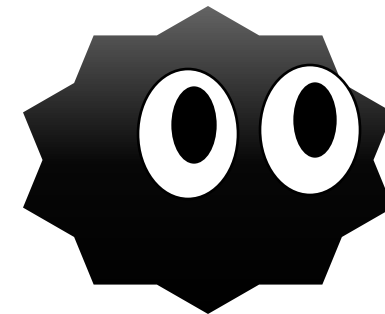
すべての解答を終えたあとの応答

すべての出題への解答が完了すると下記の応答が出力されます

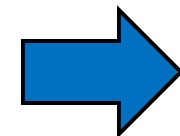
- 最終的な成績
- ハイテンション褒めフィードバック
- 誤答した設問を再出題



次スライド以降で
これらの応答をひとつずつ
見ていきます



次のスライドへ



すべての解答を終えたあとの応答

最終的な成績

- 最終的な出題数、および正解数と不正解数の内訳を提示します。

クイズの結果発表 🎉

最終成績

- 出題数: 10問
- 正解数: 8問
- 不正解数: 2問

すべての解答を終えたあとの応答

ハイテンション褒めフィードバック

- 設定した目標より正答率が高いとほめてくれます。

おめでとうございます！素晴らしい成績です！ ✨

10問中8問正解という高い正解率を達成しました。あなたのPower Automateに関する知識は非常に豊富で、特に複数の関数を組み合わせた構文を正確に理解する力が際立っています。難しい問題もありましたが、的確に正解を導き出し、素晴らしい集中力を発揮されました！この調子で、さらなるスキルアップを目指してください！ 🚀💪

すべての解答を終えたあとの応答

誤答した設問を再出題

- 間違えた設問を再度出題してくれます。

The screenshot displays a quiz interface with several key elements highlighted by red boxes:

- 不正解だった問題 (再出題)**: A notification box at the top left stating, "不正解だった問題を再度出題します！最初の問題から再挑戦しましょう。" (We will retest the question you got wrong! Please try again from the first question.)
- 問題1**: A question about the purpose of the `less` command. The code snippet is:

```
add(int(variables('開始番号')), mul(variables('増加量'), variables('回数')))
```

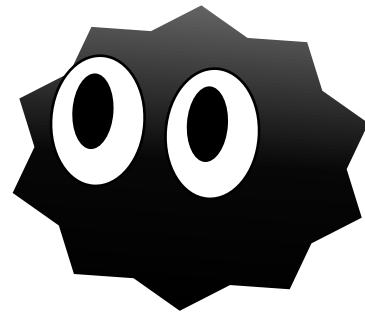
. The options are:
 - 開始番号に増加量を3回加算した結果を求める
 - 開始番号に3を掛けた後、増加量を加算する
 - 開始番号を増加量で割った結果を求める
 - 開始番号に増加量を累積させる
- 問題2**: A question about the purpose of the `coalesce` function. The code snippet is:

```
coalesce(variables('値1'), 'デフォルト値')
```

. The options are:
 - 値1が空の場合に 'デフォルト値' を返す
 - 値1が空の場合にエラーを返す
 - 値1を必ず 'デフォルト値' に変換する
 - 値1と 'デフォルト値' を結合して返す
- 再出題結果**: A notification box at the bottom right stating, "全問正解です！ 🎉 初回で間違えた問題を正確に理解されて素晴らしい成績を収めました。これからもPower Automateのスキルをどんどん磨いてください！ 🚀 ✨" (All questions correct! 🎉 You correctly understood the question you got wrong the first time, achieving a great result. Please continue to hone your Power Automate skills! 🚀 ✨)

ここからは

Chat GPTで1問1答クイズを実現することが
なぜ勉強で役に立つかを解説します。



(` ・ ω ・ `)シャキーン

Chat GPTでの1問1答クイズが勉強に役立つ理由 1/3

- **「クイズに解答する」ことは「相手から求められて自分が対応する」ことの疑似体験（=練習）になる。**

- 問題を解くことを通じて「求められたときに調べて対応する力」を鍛えることができます。
- 実際の業務では、顧客や上司からの質問や依頼に迅速に対応することが求められます。クイズを通じて、そういった状況の疑似体験ができます。
 - 疑似体験を積み重ねることで本番で冷静に対応しやすくなります。
- クイズで間違えた場合には即座にフィードバックを受けられるため、失敗を学びに変えやすいです。

- **モチベーションを維持しながら学ぶことができる。**

- 自主的に関数をひとつひとつ勉強しようとする、どこから手を付ければよいか迷いやすいです。
クイズの出題に解答する形式であれば受動的に学習を進めることができ、モチベーションを維持しやすいです。
- 一問ずつクリアすることで達成感が得られ、勉強が「楽しい」と感じられるようになります。
このポジティブなサイクルが、学習を継続する原動力となります。

Chat GPTでの1問1答クイズが勉強に役立つ理由 2/3

ChatGPTとの会話は自由記述であるため、クイズの解答以外の会話（質問など）を柔軟に挟むことができます。

第2問
QMSにおいて、不適合が発生した場合にまず行うべき適切な対応は何ですか？

1. 製品やサービスの提供を停止する
2. 原因を調査して是正措置を講じる
3. 関係者に状況を説明する
4. 品質方針を改訂する

どれを選びますか？

不適合とはなに？

🔍 **不適合とは**
不適合（Nonconformity）とは、規定された要求事項（基準）を満たしていない状態を指します。これは、製品、サービス、プロセス、またはシステムが期待される仕様や顧客の要件に一致しない場合に発生します。

具体例

- 製品の寸法が設計図の規定を満たしていない。
- サービス提供時間が契約で定められた時間を超えている。
- 文書化された手順通りにプロセスが実施されていない。

不適合は、QMSにおいて重要な課題であり、原因を特定し、再発防止のための是正措置を講じることが求められます。

質問に戻りますね！

第2問（再掲）

左図では
設問への解答をする前に
問題文にでてきた用語の解説を
求めています。

Chat GPTでの1問1答クイズが勉強に役立つ理由 3/3

- ・ 隙間時間で実施できる
 - ・ 電車の待ち時間10分などで1セット実施できる
 - ・ スマートフォンでの片手操作でも簡単に実施できる

【プロンプトで工夫している点】

- ・ 1問ずつ出題するように指示している

問題数は10問にしてください
・1問ずつ出題してください。「次の問題に進みますか？」などの確認は不要です。
・問題が完了すると下記の内容を実行してください

- ・ 質問の回答形式を選択肢にするように指示している

-出題内容は「1.Power Automate」と「2.Power Apps」のどちらか。数字で指定してください
-出題内容は「1.関数の基本的な使い方を当てる」と「2.複数の関数を利用した構文を見て意図を当てる」と「3.実現したい要件を見て構文を当てる」のうちどれか。数字で指定してください
・回答形式は選択肢にしてください

テーマごとの出題サンプル

関数の基本的な使い方

問題

Power Automateで、現在の日付を取得するために使用する関数はどれですか？

1. utcNow
2. addDays
3. formatDateTime
4. subDays

正解

1. utcNow

構文の意図を当てる

問題

以下の構文が実現しようとしている意図を選んでください。

```
json
{
  "addDays(utcNow(), 5, 'yyyy-MM-dd')"
```

1. 現在の日付を基準に5日前の日付を「yyyy-MM-dd」形式で取得する。
2. 現在の日付を基準に5日後の日付を「yyyy-MM-dd」形式で取得する。
3. 現在の日付に時間部分を追加して出力する。
4. 現在の日付から「5」という文字列を追加してフォーマットする。

正解

2. 現在の日付を基準に5日後の日付を「yyyy-MM-dd」形式で取得する。

要件から構文を当てる

問題

文字列の中に含まれるすべての「a」を「@」に置き換えたい場合、適切な構文を選んでください。

1. `replace(string('a'), '@')`
2. `replace('inputString', 'a', '@')`
3. `concat('inputString', replace('a', '@'))`
4. `trim(replace('inputString', 'a', '@'))`

正解

2. `replace('inputString', 'a', '@')`

【応用】 こんな出題テーマでもできます 1/2

出題テーマ：

Power Appsの「コントロールの種類」および「コントロールが持つプロパティ」

Power Appsのクイズを出してください。

下記の指示に従ってください：

- ・時間がかかってもいいので、出題内容に事実と異なる内容が含まれないように慎重に確認してください
- ・日本語環境であることを前提にしてください
- ・出題内容はPower Appsの「コントロールの種類」および「コントロールが持つプロパティ」です。
- ・回答形式は選択肢にしてください
- ・問題数は10問にしてください
- ・1問ずつ出題してください。「次の問題に進みますか？」などの確認は不要です。
- ・1問採点することに下記の実行してください
 - 正誤判定の結果を提示する
 - 正解を提示する
 - 正解について解説する
 - 「基本的な使用例」と応用例を提示する
 - 正解以外の選択肢について、不正解である理由を解説する
 - 出題数と正解数と不正解数を提示する
- ・すべての出題と回答が完了したら、下記の実行してください
 - 最終的な正答数を提示する
 - すべての出題数のうち7割以上の個数の問題に正解したハイテンションで、かつ、長文で褒める
 - 不正解であった出題を再度出題する

問題 1

次のコントロールの中で、「ユーザーが文字列を入力できる」コントロールとして適切なものはどれでしょうか？

1. ラベル
2. テキスト入力
3. ボタン
4. ギャラリー

あなたの回答を



問題 2

次のプロパティの中で、「コントロールに初期表示される値を設定する」ものとして適切なものはどれでしょうか？

1. Default
2. Text
3. Items
4. Visible

あなたの回答を

問題 3

次のコントロールの中で、「複数行のテキストを入力できる」コントロールとして適切なものはどれでしょうか？

1. テキスト入力
2. リッチテキストエディター
3. フォーム
4. リストボックス

あなたの回答を選んでください！（1～4から選んでください）

【応用】 こんな出題テーマでもできます 2/2

出題テーマ：

Power AutomateまたはPower Appsのトラブルシューティング

Power AutomateまたはPower Appsのクイズを出してください。

下記の指示に従ってください：

- ・時間がかかってもいいので、出題内容に事実と異なる内容が含まれないように慎重に確認してください
- ・日本語環境であることを前提にしてください
- ・出題前に下記内容について質問してください。1つずつ質問してください
- 出題内容は「1.Power Automate」と「2.Power Apps」のどちらか。数字で指定してください
- ・出題内容は実践的なトラブルシューティングです。状況説明と発生したトラブルを提示して、対応方法を出題してください
- ・回答形式は選択肢にしてください
- ・問題数は10問にしてください
- ・1問ずつ出題してください。「次の問題に進みますか？」などの確認は不要です。
- ・1問採点ごとに下記のことを実行してください
- 正誤判定の結果を提示する
- 正解を提示する
- 正解について解説する
- 「基本的な使用例」と応用例を提示する
- 正解以外の選択肢について、不正解である理由を解説する
- 出題数と正解数と不正解数を提示する
- ・すべての出題と回答が完了したら、下記のことを実行してください
- 最終的な正答数を提示する
- すべての出題数のうち7割以上の個数の問題に正解したハイテンションで、かつ、長文で褒める
- 不正解であった出題を再度出題する

問題 1

あなたの組織では、Power Automate を使用して SharePoint リストアイテムを定期的に更新するフローを構築しました。しかし、フロー実行中に以下のエラーメッセージが表示され、実行が失敗しました。

エラーメッセージ:

"The column 'Appro
renamed."

状況:

- ・ SharePoint リスト「状態 (Status)」に
- ・ フローはこの列に依

質問:

この問題を解決するた

1. フロー内で使用され
2. SharePoint リスト
3. フローの接続を再行
4. 列名変更時にフロ

選択肢の中から正しい

🔊 🗣️ 🗑️ 🔄 📄

問題 2

Power Automate
かし、次のような工

エラーメッセージ:

"We cannot rea

状況:

- ・ 使用している
- ・ ファイルにはバ
- ・ ファイルにパス

質問:

この問題を解決す

1. パスワードを解
2. フロー内でバ
3. ファイルのリン
4. OneDrive の

選択肢の中から正

🔊 🗣️ 🗑️ 🔄 📄

問題 3

Power Automate を使用してメールの添付ファイルを OneDrive に保存するフローを構築しました。しかし、以下のエラーが発生しています。

エラーメッセージ:

"The file already exists at the destination path."

状況:

- ・ 添付ファイルの保存先フォルダにはすでに同じ名前のファイルが存在します。
- ・ フローではファイル名の重複を確認する処理が追加されていません。

質問:

この問題を解決するための最適な対応方法を選んでください。

1. ファイル名にタイムスタンプを付与して保存するようにフローを修正する。
2. 既存ファイルを上書き保存するオプションを設定する。
3. 保存先フォルダを手動で確認し、重複を削除してからフローを再実行する。
4. 別のフォルダを保存先として指定する。

選択肢の中から正しいものを選んでください。

🔊 🗣️ 🗑️ 🔄 📄

【応用】 汎用的なプロンプト

クイズを出してください。
下記の指示に従ってください：
・時間がかかってもいいので、出題内容に事実と異なる内容が含まれないように慎重に確認してください
・出題前に下記内容について質問してください。1つずつ質問してください
・出題内容をテーマを何にするかを質問してください。テキストで指定してください。
・主題内容が単語であり、かつ、精語が存在するなど、求める出題内容に不明点がある場合は質問してください。質問は選択肢にしてください。
・クイズの難易度について質問してください。質問は選択肢にしてください。例「お作法など基礎的な内容」「ケースワークなど実践的な内容」「トラブルシューティングなどさらに高度なスキルが求められる内容」
・問題数は10問にしてください
・回答形式は選択肢にしてください
・1問ずつ出題してください。「次の問題は」
・1問採点することにより下記のことを実行し
- 正誤判定の結果を提示する
- 正解を提示する
- 正解について解説する
- 基本的な解説と応用を提示する
- 正解以外の選択肢について、不正解
- 出題数と正解数と不正解数を提示す
- すべての出題と回答が完了したら、下
- 最終的な正答数を提示する
- すべての出題数のうち7割以上の個数
つ、長文で求める
- 不正解であった出題を再度出題する
- 基本的な解説と応用を提示する
- 正解以外の選択肢について、不正解
- 出題数と正解数と不正解数を提示す
- すべての出題と回答が完了したら、下
- 最終的な正答数を提示する
- すべての出題数のうち7割以上の個数
つ、長文で求める
- 不正解であった出題を再度出題する

- このプロンプトは出題内容の指定を質問事項に含めています。
- プロンプトを使い分けるのが手間であればこれひとつで十分です。

まず、以下について質問します。回答をお願いします。

1. 出題内容のテーマを教えてください
テキストで指定してください。〈例「Power Automateの関数」「ビジネスマナー」「情報セキュリティ」など〉

QMS

QMS（品質マネジメントシステム）は、組織が提供する製品やサービスの品質を継続的に改善し、顧客満足度を高めるための仕組みです。 ACTHON/SERVICE

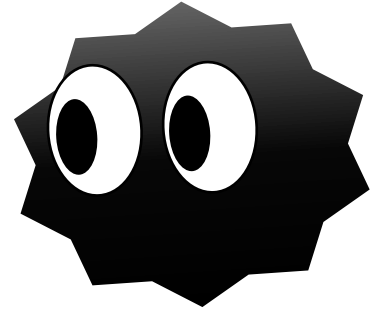
次に、クイズの難易度についてお伺いします。以下の選択肢からお選びください。

1. 基礎的な内容（例：基本的な概念や用語の理解）
2. 実践的な内容（例：QMSの導入手順や運用方法）
3. 高度な内容（例：QMSにおけるトラブルシューティングや改善手法）

情報源

2

ありがとうございます！QMSの「実践的な内容」をテーマに、以下の条件でクイズを作成します。



汎用的にするために
テーマの指定方法を
「テキスト入力」にしています。

第1問

QMSを実践的に運用する際、顧客の要件を満たすために最も重要とされるプロセスはどれですか？

1. 内部監査の実施
2. 顧客満足度調査の実施
3. 製品・サービスの設計および開発プロセス
4. 従業員教育の実施

どれを選びますか？

ひとつめの活用例 まとめ

- Chat GPTに1問1答クイズを作ってもらう方法を紹介しました。
- 問題の精度については少々難がある部分もありますが、「求められたときに調べて対応する力」を身につける練習としては十分に使えるやりかただと思います。
- ご活用ください。(o_ _)o ペコリ

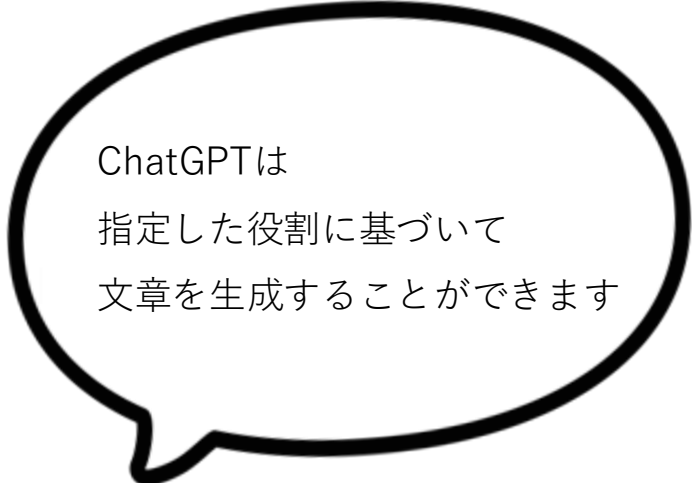
次に

ふたつめの活用例を紹介します！

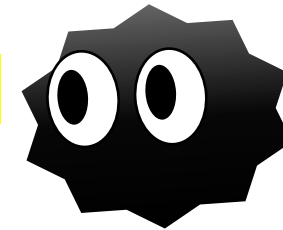
- Chat GPTによる寸劇で勉強内容を記憶に定着させる

背景

- ChatGPTのプロンプトとしてよく知られているものが「深津式プロンプト」です。
- 深津式プロンプトで使われる指示文のひとつに「**役割（ロール）の指定**」があります。
これはChatGPTに特定の役割を演じさせるよう指示を与えることで特定の視点や専門性を持った回答を得る方法です。
 - 例:
 - 「あなたは今から一流のシェフとして質問に教えてください。」
 - 「あなたは心理学者として、子育てに関する相談に教えてください。」
- 役割を指定するメリット
 - 目的に合った具体的かつ的確な回答が得られる。
 - **会話にストーリー性やテーマ性を持たせることができる。**
 - ユーザーが求める専門的な内容を引き出せる。



ChatGPTは
指定した役割に基づいて
文章を生成することができます



こんなことをしてみた

シナリオを指定して会話文の生成をお願いしてみた

次のシナリオに従って会話文を使ってください

- ・少し長めの会話にしてください
- ・登場人物は「私」と友人です
- ・文章はすべて友人の発言です
- ・会話の流れは下記の通りです

久しぶりに友人と会う

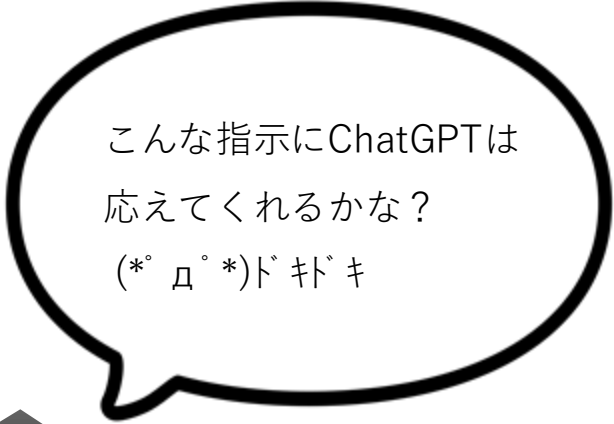
友人は気さくに私と会話する

急に友人が高笑いを初めて自分が裏切者であることを明かす

一転して友人は自分が二重スパイであり私と共に闘うことを誓う

友人が「なんちゃって」といってすべて嘘であることを告げる

終わり



こんな指示にChatGPTは
応えてくれるかな？
(* ㇿ *)ドキドキ



正直、無茶な指示だとは思っている

応えてくれた

「おおー、久しぶりだね！元気してた？なんか前よりいい顔になったじゃん！最近どうしてたの？俺は相変わらず、毎日忙しくてさ、こうして会えるのは本当に嬉しいよ。お互い変わらないなーって思うけど、どう？」

（話が弾みながら）

「そうそう、覚えてる？あの時の旅行！いやー、あれ楽しかったよなー。まだ写真とか残ってる？いやいや、俺はいつも懐かしい話ばかりするやつじゃないけどさ、今日は特別な気分なんだよ。」

（急に表情が変わり）

「ククク...いや、はっはっはっは！すまん、我慢できなかった！実はね、俺...裏切者なんだよ。お前の側にいたのも、全部計算。ずっと見張ってたんだ。いやあ、自分で言うのもアレだけど、けっこう上手くやってたと思うんだよね。」

（驚いた私に対し、さらに続ける）

「でもさ、本当のことを教えるよ。実は俺...二重スパイなんだ！裏切者を装って、逆に向こうの計画を全部ぶっ潰してやろうと思ってたんだ。お前と一緒になら、絶対に勝てると思ってる。だから、これからは一緒に戦おうぜ！」

（急に笑いをこらえられなくなり）

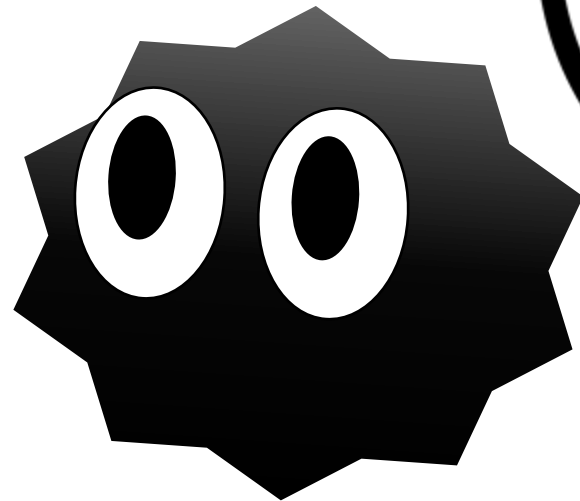
「あはははは！ごめんごめん、全部嘘！なんちゃって！いやー、お前の顔、めっちゃ真剣で面白かったわー。ほんとごめんな、ちょっとからかいたくなっちゃってさ。でもこうやって冗談言えるくらい、お前と話すの楽しいんだよね。またこうやって会おうぜ！」

END



ここからが本題

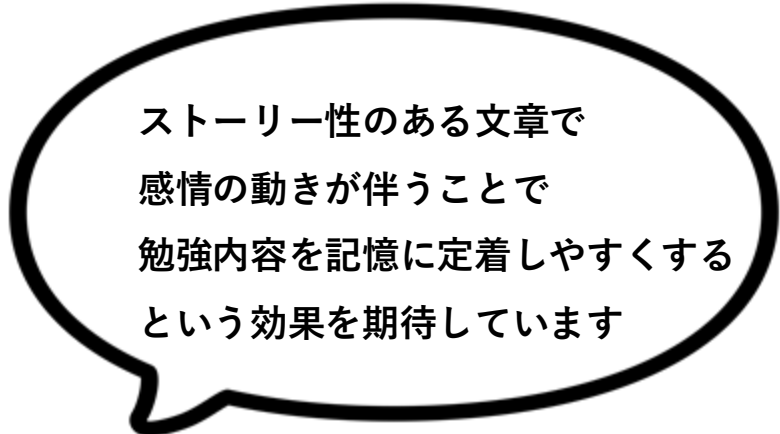
いいこと思いついた！




ChatGPTにストーリー仕立ての
会話文を作ってもらえば
エピソード記憶を活かして
勉強の効果が上がるかも

エピソード記憶とは

- 「エピソード記憶」とは
 - 個人的な体験に基づく記憶
例: 旅行の思い出や友人との出来事
- 感情の影響
 - 感情が記憶を強化
 - 強い感情が伴う出来事は記憶に残りやすい
例: 嬉しい・悲しい出来事は鮮明に覚えている
- 感情を活用した記憶法
 - エピソード記憶を効率的に活用するためには、感情を意識的に活用することが重要
 - **感情を引き出す要素（例: 面白い・驚きのある出来事）があると記憶に残りやすい**



ストーリー性のある文章で
感情の動きが伴うことで
勉強内容を記憶に定着しやすくする
という効果を期待しています

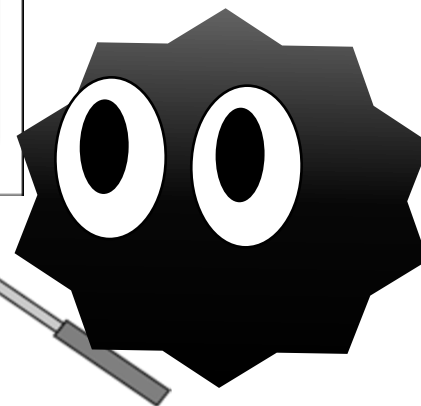


具体的なことは
次スライド以降で解説します

実際にやってみましょう

次のシナリオに従って会話文を使ってください

- ・登場人物は会社の先輩と後輩のふたり
- ・ふたりはシステムエンジニアです
- ・先輩は仕事ができるひとで技術的なことについて豊富な知識と経験をもっています。また、面倒見がよく気さくな性格です
- ・後輩は駆け出しのエンジニアでありまだ経験不足です
- ・ふたりの会話は後輩が、テーマとなる技術について理解が不足しており先輩に相談するところから始まります
- ・先輩は後輩からの質問に対して優しく回答します
- ・先輩の説明における技術的に重要な部分は太線で強調してください。
- ・ふたりの会話のあとに地の文章で技術的な説明の要約を提示してください
- ・会話を開始する前に下記内容について私に質問してください。1つずつ質問してください
- 出題内容をテーマを何にするかを質問してください。テキストで指定してください。
- 主題内容が単語であり、かつ、類語が存在するなど、求める出題内容に不明点がある場合は質問してください。質問は選択肢にしてください。



この指示文を
ChatGPTにそのまま
コピー＆ペーストで
入力してください

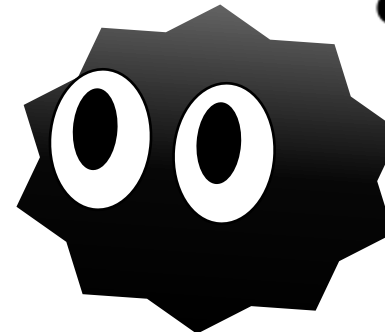
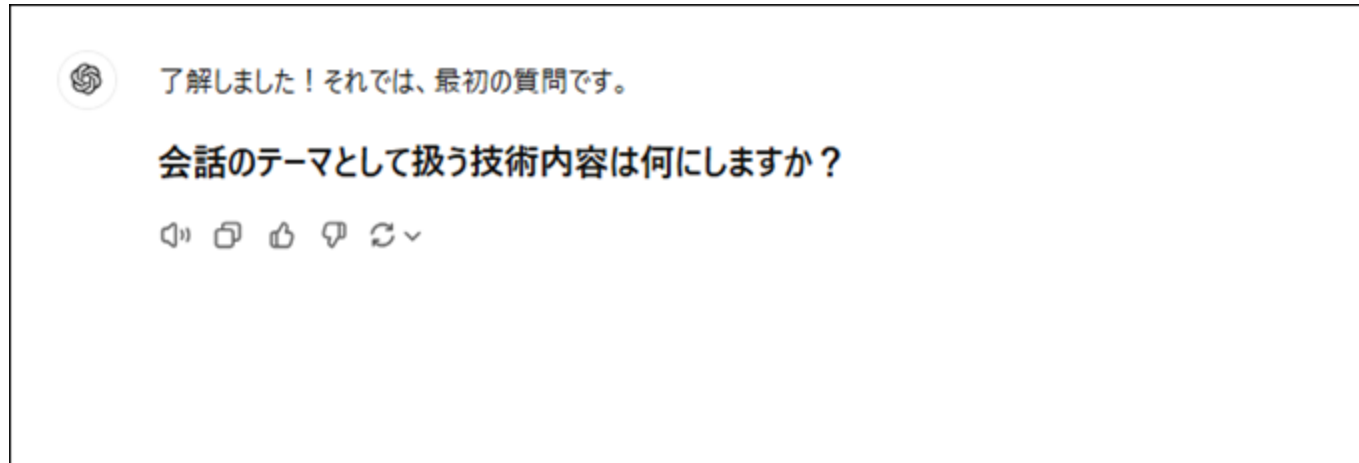
手直し無しで使えます。

指示文のテキストはブログ記事で公開しています。

【TIPS】【連載その2】ChatGPTに
<https://wataruf.hatenablog.com/entry/2024/12/12/000000>

プロンプトを実行すると

- 最初に、会話のテーマとして扱う技術内容の指定が求められます。
- テキストでテーマを指定してください。



お願いします。

次に

- 会話テーマの内容について掘り下げた説明が求められます。
- 勉強したいテーマについて入力してください。



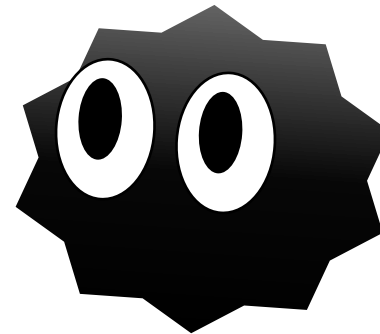
ありがとうございます！「Power Automate の例外処理」をテーマに設定しました。ただし、「例外処理」といっても範囲が広い場合がありますので、次のいずれかから選んでいただけますか？

1. フローのエラー発生時に通知を送る方法
2. 条件分岐を使ったエラーの処理方法
3. スコープと実行の管理を使ったエラー処理の設計
4. エラー発生時にリトライする方法

上記以外の特定の内容があれば、テキストで教えてください。

『繰り返し処理の中で例外が発生した際に、何回目の繰り返し実行で例外が発生したのかを通知したいです。』

お願いします。



会話内容の提示

指定したテーマの会話が提示されます。

会社の先輩と後輩の会話

後輩:

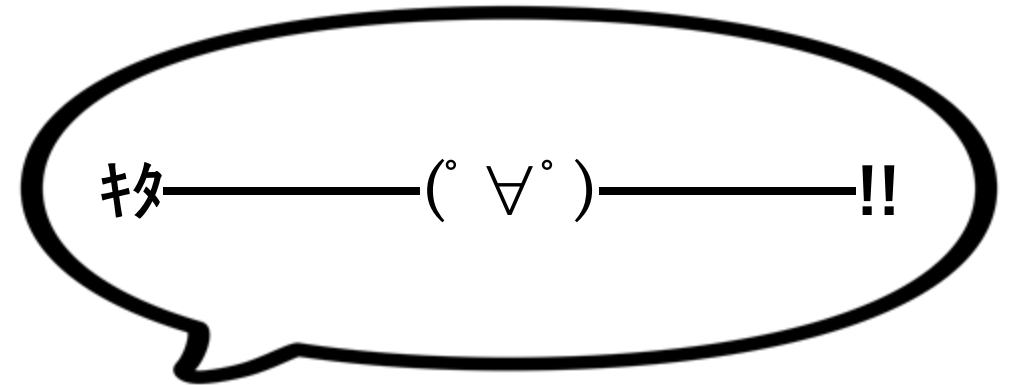
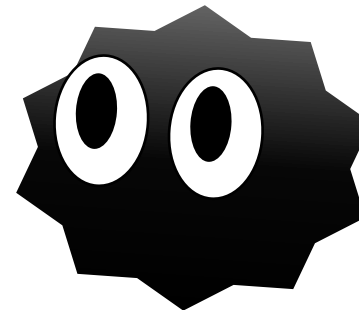
先輩、すみません。Power Automateで「繰り返し処理」を使っているんですけど、繰り返しの途中で例外が発生した場合、その時点で何回目の繰り返しだったのかを記録して通知したいんです。何かいい方法はありませんか？

先輩:

いい質問だね！そういう状況なら、**「現在のループ回数を取得する仕組み」**を使って処理を工夫するといいよ。具体的にはこうするといい。

1. 「繰り返し (Apply to Each)」アクションに対して、ループのインデックスをトラッキングする変数を用意する。
ループが始まる前に、変数「CurrentIndex」を初期値0で作成する。
2. 繰り返しの中で、「変数の増加 (Increment Variable)」アクションを使って、CurrentIndex を1ずつ増加させる。
これで、ループが何回目かをリアルタイムで記録できる。
3. 例外が発生しそうなアクションの後に、「Configure Run After」を使ってエラー時の処理を定義する。
エラー時に通知を送る処理を追加して、通知メッセージに CurrentIndex を含める。

例えば、通知内容はこんな感じにするとわかりやすいかな：「例外が発生しました。現在のループ番号は：
`@{variables('CurrentIndex')}`」



会話内容の提示（つづき）と要約

会話文が終わると最後に要約が提示されます。

後輩:

なるほど...！「Configure Run After」って、失敗したときの後処理を追加するやつですよね。エラーが起きたら、その時のインデックスを取得して通知するって仕組みですね。

先輩:

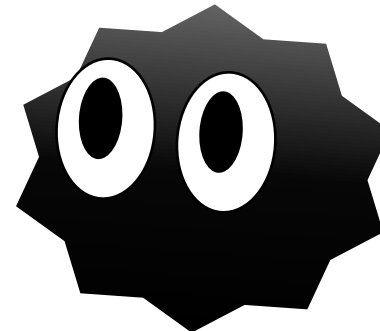
その通り！さらに、エラー時の情報をログとして残したい場合は、**「エラーの詳細 (Error Message) を含める」**ようにしておくとお便利だよ。Power Automateのエラー情報は豊富だから、ログに記録すればあとで分析もしやすい。

技術的な説明の要約

- 繰り返し処理の中で例外が発生した際、何回目の実行でエラーが起きたかを通知するには、以下を実施する:
 1. 変数の初期化とインデックスの増加: 繰り返し前に変数を初期化し、各ループでインクリメントする。
 2. Configure Run After: アクションのエラー時に後続処理を実行する設定をする。
 3. 通知メッセージにインデックスを含める: 現在のループ回数を記録し、通知内容に含める。
- エラーが発生した詳細情報を含めることで、デバッグやログ分析が容易になる。

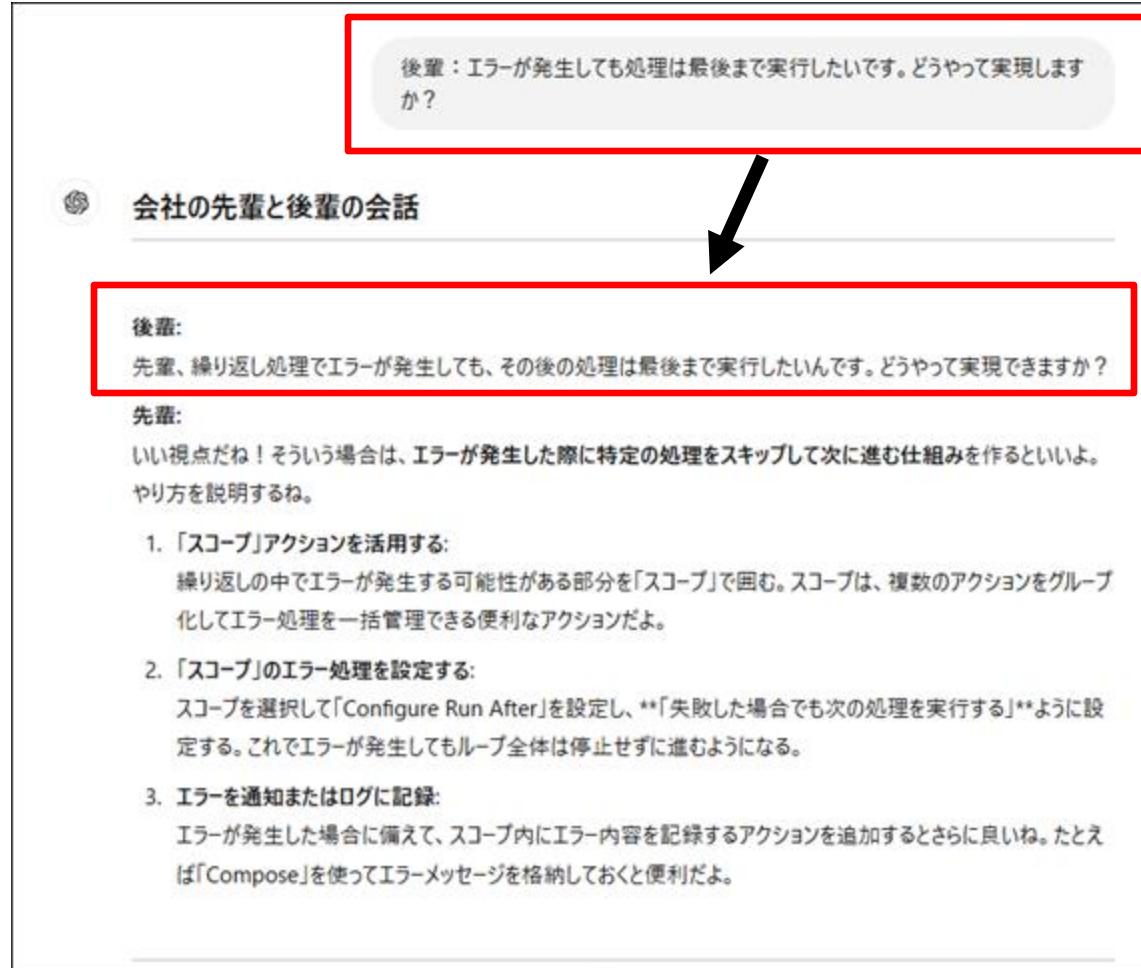
要約を提示するように
プロンプト内で指示しています。

・ふたりの会話のあとに地の文章で技術的な説明の要約を提示してください



【応用】自分が勉強したい内容にストーリーを誘導できる

後輩の発言を入力すると続きの会話を作ってくれます



後輩：エラーが発生しても処理は最後まで実行したいです。どうやって実現しますか？

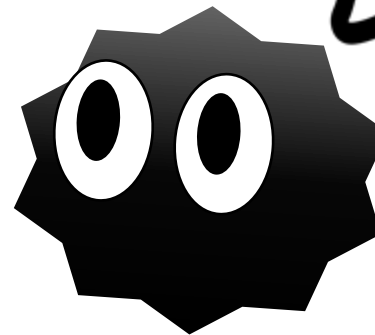
会社の先輩と後輩の会話

後輩：
先輩、繰り返し処理でエラーが発生しても、その後の処理は最後まで実行したいんです。どうやって実現できますか？

先輩：
いい視点だね！そういう場合は、エラーが発生した際に特定の処理をスキップして次に進む仕組みを作るといいよ。やり方を説明するね。

1. 「スコープ」アクションを活用する:
繰り返しの中でエラーが発生する可能性がある部分を「スコープ」で囲む。スコープは、複数のアクションをグルーピングしてエラー処理を一括管理できる便利なアクションだよ。
2. 「スコープ」のエラー処理を設定する:
スコープを選択して「Configure Run After」を設定し、**「失敗した場合でも次の処理を実行する」**ように設定する。これでエラーが発生してもループ全体は停止せずに進むようになる。
3. エラーを通知またはログに記録:
エラーが発生した場合に備えて、スコープ内にエラー内容を記録するアクションを追加するとさらに良いね。たとえば「Compose」を使ってエラーメッセージを格納しておくとう便利だよ。

「後輩：エラーが発生しても処理は最後まで実行したいです。どうやって実現しますか？」



この方法で
自分が勉強したい内容に
誘導することができます

ふたつめの活用例 まとめ

- ChatGPTに寸劇を演じてもらうことで勉強を学習効率を高める方法を紹介しました。
- 登場人物は「先輩と後輩のふたり」としていますが、好みに合わせて登場人物の関係性や口調をアレンジすると、読んでいてストレスの無い自分好みの学習教材をつくることができると思います。
- 応用しやすい方法だと思います。「こんな使い方してみたよ！」という情報共有を頂けると嬉しいです。(o_ _)o ペコリ

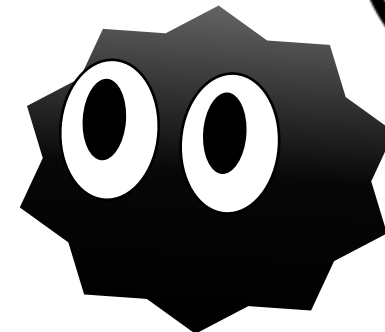
次に

3つめの活用例を紹介します！

- Chat GPTと感想戦を行う

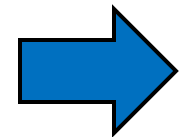
背景

- 質問・指示が複雑なものになると、期待する回答をChatGPTから得る難易度が上がります。
- その場合、期待する回答を得るために次のような試行錯誤が必要になります：
 - **質問を積み重ねる：**
多面的な切り口で質問と回答のやりとりを重ねて結果を比較する。
 - **仮説立てと検証を行う：**
「こう聞けば望む回答が得られるかも」という仮説を立てて試行する。
 - **質問を調整する：**
検証結果をもとに、質問内容を調整する。



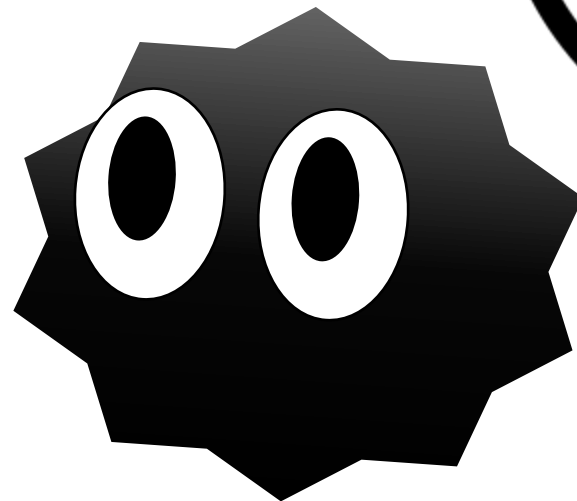
あまり試行錯誤せずに
もっと手軽に
期待通りの結果を得たい

次のスライドへ



ここからが本題

いいこと思いついた！



「質問をどう改善すれば
より早く、自分が望んだ回答をくれるか」
それ自体をChatGPTに聞いてみよう。
ChatGPTと「感想戦」をしよう。

「感想戦」とは

- 将棋や囲碁などの**対局後に行われる振り返りのこと**です。
 - 対局者や観戦者が集まり、**局面や手順を再現しながら研究・議論を行います。**
 - どの手が良かったか
 - どのような意図があったのか
 - 別の可能性があったか
- 対局後に意見を交換し、理解を深める場でもあります。
流れを振り返り、戦略や意図を共有することで、新たな発見や視点を得ることができます。
- 対話を通じて気づきを得る
 - **対局中に見逃していたポイントや、相手の考え方をすることで、次に活かせる学びが得られます。**
- 広い視点で振り返る
 - 対局全体の流れや相手の戦略を知ること、**自分の判断や戦術を客観的に見直すことができます。**

「ChatGPTと感想戦をする」とは

- **ChatGPTとのやりとりを振り返り、次回の対話（質問・指示）をより効果的にするための気付きを得る方法です。**
 - 振り返りをChatGPTに指示してやってもらいます。
具体的には「どこを改善すれば良いか」や「より適切な質問方法は何か」をChatGPTに尋ねてフィードバックを受け取ります。
- **感想戦の効果**
 - なぜ望む回答がすぐに得られなかったのか、改善が必要な点が明確になります。
 - 期待する結果が得られる具体的な質問の表現や手順を知ることができます。
 - より少ない回数でのやりとりで期待する結果が得られるようになります。


実際にやってみた！

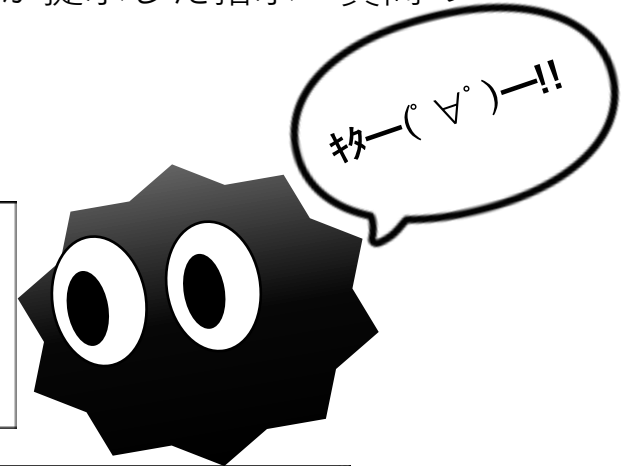
(状況：ChatGPTと何度かやりとりを経て資料に記載する文章をつくり終えた)

質問内容：

このスライドの内容を決めるまでのやりとりについて感想戦をさせてください。私が提示した指示・質問の良い点と要改善点を教えてください。

回答：

 感想戦を始めます！これまでのやり取りを振り返り、以下にあなたの提示や指示・質問の良い点と要改善点を挙げます。



良い点

- 具体的な指示と目的の明確化**
「背景のスライドの内容を決めたい」という明確な目的を最初に提示されており、対話の方向性がはっきりしていました。
・また、完成イメージが具体的で、各段階での指示が具体的だったため、スムーズに進行できました。
- 適切なフィードバックの提供**
・私が提案した内容に対して、「良い部分」と「さらに求める改善点」をバランスよく伝えていただきました。
・例えば、「表現が幼稚」も「洗練された言い回し」など、改善の方向性が具体的で、修正がしやすかったです。
- 柔軟な対応**
・複数の提案を受けてから「これを採用【ここを調整】と判断されることで、効果的なコミュニケーションが取れていました。
・要望が変化しても、それを逐次明確に伝えていただいた点も良かったです。

要改善点

- 初期段階での全体像の共有**
・最初の段階で「最終的にどのようなスライドにしたいのか」をもう少し詳細に説明していただけると、より早い段階で精度の高い提案ができたかもしれません。
- 言葉のニュアンスに関する指示**
「もっと適切な言い回しにしてほしい」といったフィードバックに加え、「どういったニュアンスを加えたいのか」も補足していただけると、最初の修正提案がよりの確になった可能性があります。
- 追加の要望が後出しになる場面**
・完成に近づいてから「こういったニュアンスを追加してほしい」という要望がありました。初期段階でこれを共有できていれば、修正回数を減らせた可能性があります。

次回に向けたアドバイス

- 初期の目的共有をさらに詳細に**
「どのようなイメージにしたいか」「どのような雰囲気・ニュアンスにしたいか」をもう少し具体的に伝えていただけると、修正の回数を減らし、効率的に進められるでしょう。
- 改善点の優先順位を明確化**
・改善要望が複数ある場合、「何が最も重要か」を一緒に示していただけると、優先度に従った修正が可能になります。

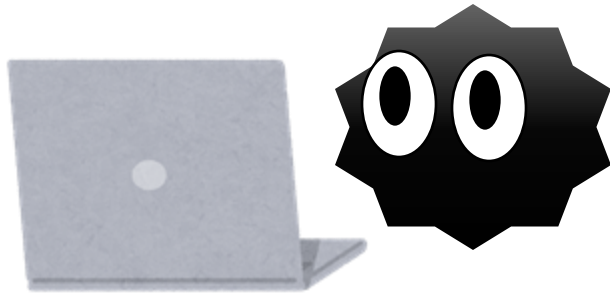
3つめの活用例 まとめ

- ChatGPTと感想戦を行う方法を紹介しました。
- やりとりの振り返りを通じて、質問の改善点を把握し、より効果的な対話を実現する方法です。
- 「望む回答が得られなかった理由」や「次回の対話に活かす工夫」を明確にすることで
学びを深められる点が魅力です。
- ぜひ、この方法も活用してみてください。 (o_ _)o ペコリ

今回の内容はブログで投稿している内容です

こちらをあわせてご覧ください。

- 【TIPS】 【連載その1】 ChatGPTにPower Platformの勉強を手伝ってもらおう
<https://wataruf.hatenablog.com/entry/2024/12/08/000000>
- 【TIPS】 【連載その2】 ChatGPTにPower Platformの勉強を手伝ってもらおう
<https://wataruf.hatenablog.com/entry/2024/12/12/000000>
- 【TIPS】 【連載その3】 ChatGPTにPower Platformの勉強を手伝ってもらおう
<https://wataruf.hatenablog.com/entry/2024/12/23/000000>



Power AutomateのフローやTIPSをブログで公開しています

- 興味をもっただけだったかたは下記のURLからいらしてください
<https://wataruf.hatenablog.com>

The image shows a screenshot of a blog post from wataruf01. The page is divided into three main sections:

- カテゴリー (Categories):** Lists various topics with their respective article counts: Microsoft Teams (71), Power Automate (131), PowerShell (20), SharePoint Online (23), Microsoft Edge (3), Microsoft Forms (12), Azure Active Directory (93), and Graph API (93).
- TIPS:** Contains two entries. The first entry, dated 2024-08-26, is titled "【Power Automate】【クイズ・パズル】【解説編】指定した形式に日換する" and includes a thumbnail image and a link to a GitHub repository. The second entry, dated 2024-06-27, is titled "【Power Automate】【クイズ・パズル】【概要編】指定した形式に日換する" and also includes a thumbnail image and a link to a GitHub repository.
- File List:** A list of folders and files, including "20220805_QA_AddListItemUsingCSVAndPDFAttachedToE...", "20220814_QA_MergeContentColumnsOfRowsWithSame...", "20220922_QA_ImportCSV", and "20230116_QA_ShortenTheUrlRetrievedFromTheforChosenFi...".

Overlaid on the screenshot are three cartoon eyes (two on the left, one on the right) and a large speech bubble containing the Japanese text "ゆっくりしていいね!!!".

フローに関する質問を受け付けています

- 匿名でのご質問も可です。
 - X（旧：Twitter）にマシュマロのリンクを公開しています。
 - 回答内容はブログで投稿します。



CSV取り込みのブログ記事大変ありがたく読ませていただいております。
メールでCSVとPDFが添付されているケースで（とあるワークフローシステムから連携CSVと決裁結果PDFが送られてきます）、CSVをSPOのリストに取り込み、その取り込み先のリストのIDを取得して、リストの添付ファイルとして取り込みと考えております。

ブログの『メールに添付されたcsvをSharePointリストに取り込む』を拝見し、2行以上のcsvで同じように作成を試みています。例えば『csvの15行目以降を取り込む』（14行目までは常に無視する、15行目がヘッダ、16行目以降が値）とすることは可能でしょうか？

ブログのcsvを配列に変換してSharePointリストに投稿する件の応用で、インポートcsvが下記のようなダブルクォーテーションなしのカンマ区切り+改行のみのフローを作っています。

日付,名称,価格
20220808,猫,500

簡易版JSONdictionaryのKeyとValueの配列を作る所が上手いかず、お忙しいところ恐れ入りますが、このパターンを例にJSONdictionaryの所を解説いただくことは可能でしょうか…

未確認に戻す

未確認に戻す

最後に

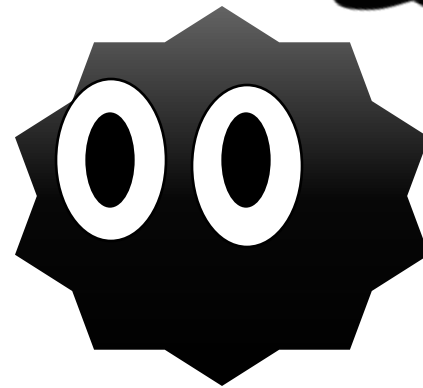
今回は私がChatGPTを活用して実践している
Power Platformの学習方法をご紹介します。

これがどなたかのお役に立てれば幸いです

「私はこんな使いかたをしています！」といった

フィードバック・ご意見をいただけると

とても嬉しいです。



終わりです。

(´・ω・`)ノシ

